

兵庫県のゴミムシダマシ (4)

(兵庫県甲虫相資料. 241)

高橋 壽郎*

33. *Platydemia nigropictum* (Nakane, 1963)

ヒメキオビキノコゴミムシダマシ

中根博士によって“Wakayama, Gifu, Nara”産で記載された (Frag. Col. Pars. 7:27, 1963)。同博士による原色図説 (1963), 中條、安藤氏の図説もある (1985)。

分布は本州, 九州, 対馬, 屋久島である。県下で筆者未採集なのでよく分布がわからない。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978]

34. *Platydemia pallidicollis* (Lewis, 1894)

クロオビキノコゴミムシダマシ

Lewis により “Yokohama. Nine examples from a baletus at Bukenji in company with a large number of *A. japanus*, Mars.” として *Alptydemia pallidicollis* の学名で記載された (1894)。中根博士は *Platydemia pallidicollis* として図説された (1950, 1963) 林博士による幼虫の図説があり (1966), 中條、安藤氏の図説もある (1985)。

分布は本州, 四国, 九州, トカラ諸島, 奄美大島, 沖縄, 先島諸島, 台湾, 中国, フィリピン, インドシナ, スンダ列島, インドと広く, 南方系のように思われる。

筆者は県下で未採集。次の記録があるがよく分布がわからない。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1979], 城崎郡三川山 [高橋, 1975]

35. *Platydemia recticorne* (Lewis, 1894)

ツノボソキノコゴミムシダマシ

Lewis が “Kiga, Nikko, Oyayama and Konose. Rather common” を産地に記載された種である (1894)。林博士は幼虫の図説をされた (1952, 1966)。福田氏も幼虫を図説しておられる (1959)。中根博士は原色で図説され (1963), 中條、安藤氏も図説しておられる (1985)。

分布は本州, 四国, 九州, 種子島, 屋久島, 琉球 (トカラ中之島, 西表島)。

県下であまり産地が知られていない。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]。西宮市船坂

(11 exs., 5, VI, 1987)。美囊郡吉川町奥山 (1 ex., 17, V, 1986), 城崎郡三川山 [高橋, 1975], 美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972]

36. *Platydemia subfascia* (Walker, 1858)

ベニモンキノコゴミムシダマシ

Walker がセイロン産で *Alphitophagus* 属として記載された種である (1858)。

中根博士の図説 (1963), 中條、安藤氏の図説 (1985) がある。Marseul が “Hiogo” 産で *P. japanus* として記載した種 (1876), Chevrolat がスンダ島から *P. celebicum* として記載した種 (1877), Fairmaire が “Hiogo” *P. diversidens* として記載した種 (1893), Motschulsky がインドから記載した *Basides picicollis* (1873) 等々いずれも本種のシノニムである。

分布は日本全土, 台湾, インドシナ, ビルマ, スリランカ, ボルネオ, スマトラ, マラッカ, メンダウエイ, ジャワ, マダガスカル。

なお, 西表島, 石垣島に亜種 ssp. *yaeyama* Nakane (1973) を産する。成虫, 幼虫共に枯木に生じたカワラタケ, カイガラタケなどのキノコを食べる。キノコの中で蛹化する。成虫は樹皮下などで越冬する。県下では割合いる種であるが山地帯での記録があまりない。

産地: 三原郡慶野松原 (14 exs., 26, V, 1983), 洲本市先山, 三熊山 [宮武, 1973], 川辺郡猪名川町槻並 (1 ex., 4, V, 1979), 川西市見野, 笹部, 大和 [仲田, 1970, 1978, 1982], Hiogo [Maruseul, 1876., Fairmaire, 1893], 神戸市烏原 (2 exs., 15, V, 1960. 2 exs., 19, VI, 1980. 1 ex., 18, VI, 1984), 藍那 (1 ex., 9, VII, 1979), 妙法寺 (4 exs., 2, VIII, 1978. 1 ex., 26, I, 1979)。明石市明石城内 (5 exs., 26, VI, 1986) 三木市美囊川々原 (1 ex., 25, VI, 1979), 美囊郡吉川町 (2 exs., 11, VII, 1985), 加東郡社町三草 (13 exs., 14, VII, 1989. 4 exs., 22, V, 1989)

37. *Platydemia sylvestre* (Lewis, 1894)

チビキノコゴミムシダマシ

Lewis により Hakone ando Kiga. Six specimens* で記載された種である (1894)。中根博士は原色で図説しておられる (1963)。最近, 中條・安藤氏による図説

* 神戸市兵庫区氷室町1丁目44

もある (1985)。

分布は本州, 四国, 九州である。

筆者は県下で未採集である。

産地: 城崎郡三川山 [高橋, 1975]

38. *Alphitophagus bifasciatus* (Say, 1823)

フタオビツヤゴミムシダマシ

Say によって北アメリカから *Phylethus* 属で記載された (Journ. Phil. Acad. Nat. Sci. 3: 268, 1823)。Hamilton は当時ヨーロッパ各地から *Alphitophagous quadripustulatus* Stephens として知られていたものと同種として以来本種の学名として上記が用いられるようになった。

中根博士の原色による図説もあるが (1963), 宮武睦夫氏が詳しく図説しておられるのが非常に重要である (A-Kitu, vol. 5, No. 4, p. 90-93, 1956)。最近, 中條・安藤氏の原色図説もある (1985)。

分布は本州, 四国, 九州の他に北アメリカ, トルコ, ヨーロッパ, オーストラリアと広く, 貯穀害虫として知れている。貯穀倉庫などを探せばいるかもしれない。

筆者は残念ながら県下で採集していない。

産地: 川西市大和 [仲田, 1978], 出石郡出石町安良 [高橋, 1963], 城崎郡香住町小原 [高橋, 1975]

39. *Basanus erotyloides* (Lewis, 1891)

ヨツボシゴミムシダマシ

Lewis により Japan 産で記載された種 (1891)。河野博士の図説 (1950), 中根博士の図説があり (1963), 中條・安藤氏の図説もある (1985)。

一般的には余り知られていない種のものであるが場所によっては大変多く産する。枯れ木, 朽ち木の良いのがあればそれに来ている。

キノコなどの菌類を食べるように考えられる。

産地: 相生市三濃山 (9 exs., 6, VII, 1973, 15 exs., 28, IV, 1974, 2 exs., 3, V, 1974, 1 ex., 2 exs., 3, V, 1974, 1 ex., 18, V, 1974, 5 exs., 1, VI, 1974, 1 ex., 16, VI, 1974), 城崎郡城崎町 (1 ex., 25, X, 1978), 美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1976]

40. *Ischnodactylus lorips* (Lewis, 1894)

ヒラタキノコゴミムシダマシ

Lewis により "Oyayama. Three specimens" を産地に図入りで記載された種である (1894)。中根博士の図説 (1963), 中條・安藤氏の図説 (1985) もある。林博士も幼虫を図説しておられる。

分布は本州, 四国, 九州である。

本種も県下での産出状況がよくわからない種である。調査が不十分のせいかと思われる。

産地: 三原郡西淡町慶野松原 (2♂, 26, V, 1983), 神戸市六甲山, 摩耶山麓 [柴内, 中畔, 1950], 山の街 (2 exs., 15, V, 1960), 美婁郡吉川町奥山 (lex., 10, VI, 1986)。水上郡小金岳 [山本, 1958]

41. *Ischnodactylus parallelicornis* (Nakane, 1956)

ヒラツノキノコゴミムシダマシ

中根博士が "Towada, Daisen, Kurani-Bizen" 産で *Platyedema parallelicorne* として記載された種である (Sci. Rep. Saikyo Univ., 2, 3: A 164-165, 1956)。

同博士はその学名で原色図説をしておられる (1963) が 1978年にこの原色昆虫図鑑追補, 正誤表が発表され, その中で本種を *Ischnodactylus* 属の種とされている。中條・安藤氏の図説がある (1985)。分布は本州, 四国, 九州である。兵庫県では北の方での記録があるだけで少ない種のものである。

産地: 城崎郡三川山 [高橋, 1978], 美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972]

42. *Ceropria inducta* (Wiedemann, 1819)

ナガニジゴミムシダマシ

Wiedemann がジャワから *Helops* 属で記載された種である (Zool. Mag., 1, 3: 164, 1819)。Lewis は "Nagasaki and Oyama. Like the three preceding species in Japan, it occurs under the bark of Kuro-matsu (*Pinus massomana*, S. & Z.)" と記録している (1894)。

中根博士の図説 (1963), 中條・安藤両氏の図説 (1985), 林博士の幼虫の図説がある (1966)。

背面は黒色で赤紫色の金属光沢があり美しい種。成虫, 幼虫ともに枯れ木に生じ, カワオソタケなど多孔菌のキノコを食べる。

分布は北海道以外の日本全域と台湾, 中国, 東南アジアと広い。普通に見られる種である。

産地: 津名郡常陸寺山 (2 exs., 20, IV, 1974), 洲本市安乎町 [堀田, 1978], 川辺郡猪名川町上阿古谷, 木間生 [仲田, 1978]。槻並 (1 ex., 4, V, 1979)。川西市大和, 見野, 笹部 [仲田, 1978, 1982], 神戸市再度山 (1 ex., 20, VI, 1979), 鳥原 (1 ex., 21, V, 1971, 3 exs., 30, V, 1971, 2 exs., 13, VI, 1971, その他省略), 下谷上 (1 ex., 16, I, 1980), 山の街 (2 exs., 10, V, 1959), 藍那 (4 exs., 23, V, 1978, lex., 14, VI, 1978, 3 exs., 19, VIII, 1978), 妙法寺 (5 exs., 26, VIII, 1978), 須磨鉢伏山 (1 ex., 9, VIII, 1975), 押部谷町木見 (1♂♀, 23, VI, 1980), 三木市口吉川 (2 exs., 30, V, 1985), 口吉川 (1 ex., 11, IX, 1986), 明石市明石公園 (1 ex., 7, VII, 1979, 1 ex., 26, VI, 1986), 加西市畑 (1 ex., 23, VI, 1974, 1 ex., 29, VI, 1974), 多可郡加美町三谷 (2 exs., 23, IX, 1974), 鳥羽 (1 ex., 6, IX, 1975),

飾磨郡家島 [上田,1981], 相生市三濃山 (5 exs.,6, VII, 1973, 1 ex., 28, IV, 1974, 2 exs., 12, V, 1974, 3 exs., 18, V, 1974, 8 exs., 1, VI, 1974, 4 exs., 16, VI, 1974), 水上郡 [山本, 1958], 出石郡但東町小谷 [高橋, 1963], 城崎郡香住町矢田 [高橋, 1985], 日高町 (2 exs., 25, X, 1985), 宍粟郡赤西 (3 exs., 23, VI, 1979), 養父郡水の山 (6 exs., 25, VII, 1955, 2 exs., 10, V, 1959), 美方郡扇の山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972]。

43. *Ceropria sulcifrons* (Harold, 1878)

オオナガニジゴミムシダマシ

Harold が記載された種である (Stett. Ent. Ztg., 39, 353, 1878)。Lewis は “Kiga and Hakone (abundant), and a Oyayama ” として記録された (1894)。

分布は本州, 四国, 九州, 対馬である。

兵庫県下での記録は扇の山があるだけである。

産地: 美方郡扇の山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972]

44. *Addia scatebrae* (Lewis, 1894)

マルツヤニジゴミムシダマシ

Lewis が “Miyanoshita. One female example in May ” として新属, 新種で記載された種である。(Ann. Mag. Nat. Hist., VI, 13:466, 1894)。中根博士の図説 (1963), 中條・安藤氏 (1985) の図説がある。

分布は本州, 四国, 屋久島, 台湾である。

産地: 川辺郡猪名川町清水, 上阿古谷 [仲田, 1978]

45. *Menimus niponicus* (Lewis, 1894)

アカチビゴミムシダマシ

Lewis により “Kiga. Found in the recesses (a foot from the bark) of a very large and decaying beech, in company with Engonioptus Lewis, Reitt.; six examples ” として記載された種である (1894)。中根博士の図説 (1963), 中條, 安藤氏の図説 (1985) がある。

分布は本州, 四国。

県下での記録は全くない。大河内町で1頭採集されているだけである。

産地: 神崎郡大河内町川上 (1 ex., 18, VI, 1977)

46. *Derispia japonicola* (Miyatake, 1961)

ニセクロホシテントウゴミムシダマシ

宮武陸夫氏によって本州, 四国産の多くの標本に基づいて記載された種である。(Trans. Shikoku Ent. Soc. Vol. 7, No. ½ : 36-37, 1961)。中根博士によって図説されている (1963)。中條, 安藤氏の図説もある (1985)。

本種も県下での記録がなかった。音水で一頭採集され

ている。もっと県下に分布しているように思われる。

産地: 宍粟郡音水 (1 ex., 16-VII-1972)

他誌交換情報

『串本海中公園 マリンパビリオン』			
Vol. 19, No. 1~12	1990	1~12	串本海中公園センター
『Nature Study』			
36巻 1~12号	1990	1~12	大阪市立自然史博物館
『比婆科学』			
145	1990	4	比婆科学教育振興会
『兵庫陸水生物』			
No. 35~37	1990	4~8	兵庫陸水生物研究会
『京都植物』			
第20巻 1~3	1990	1~8	京都植物同好会
『香川生物』			
No. 15~17	1989	2~1990 3	香川生物学会

以上の会誌・研究誌の寄贈を受けています。御利用の向きは、編集部まで御連絡下さい。